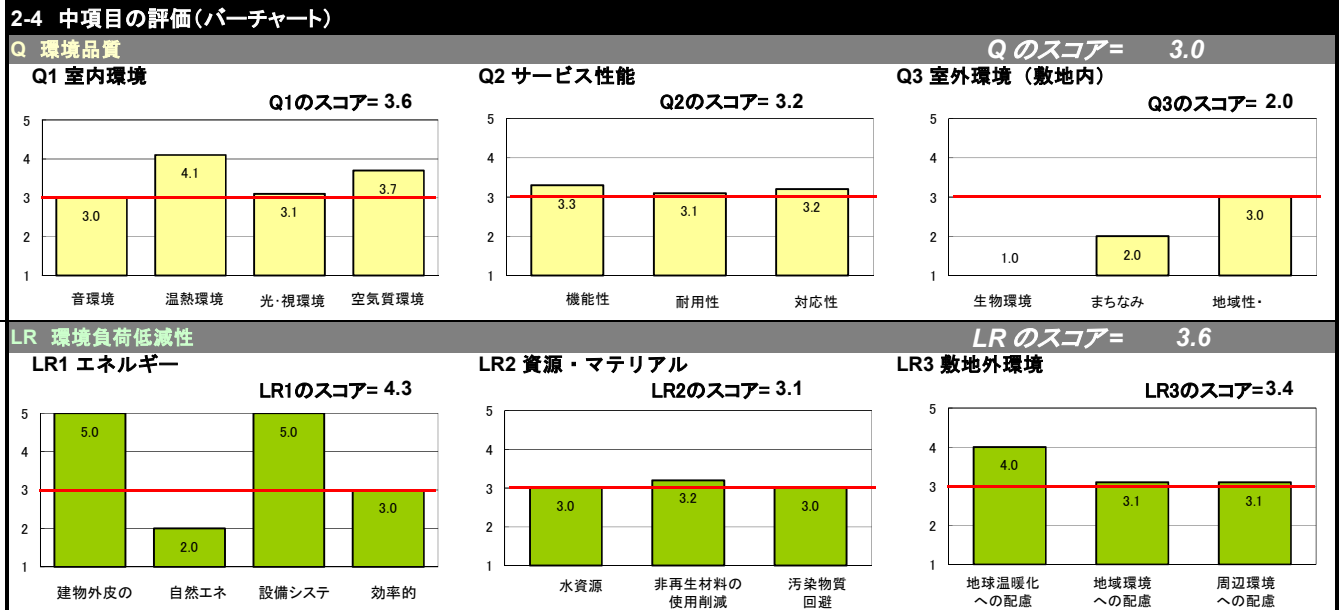
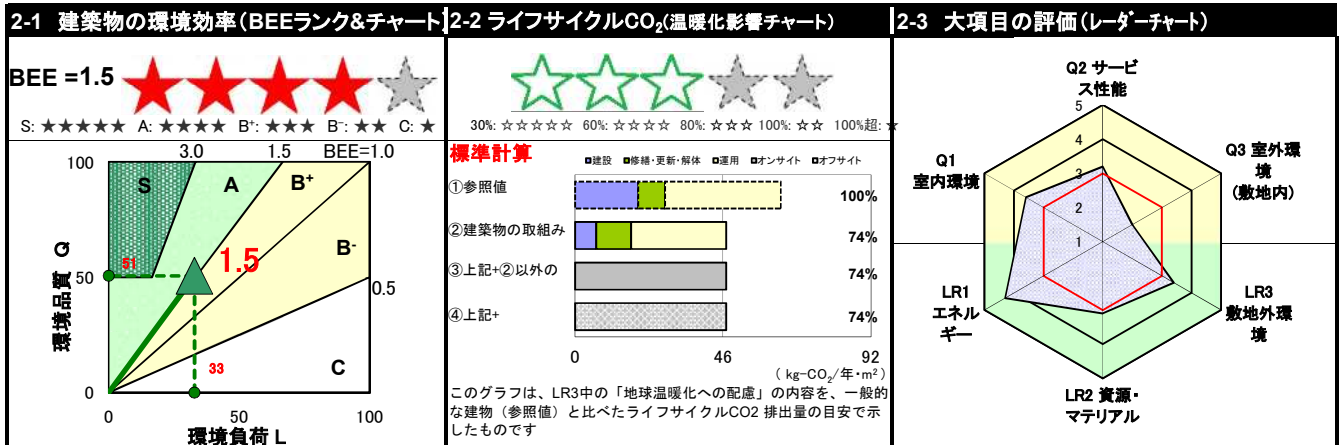


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 23042

建築物名称	(仮称)新川崎プロジェクト新築工事
建築主	伊藤忠都市開発株式会社 都市住宅本部 都市住宅事業第一部長 井上 宏二
建築物の所在地	川崎市幸区下平間字宮前耕地146-1、146-2
設計者氏名、建築士事務所名	竹林 正隆 株式会社デベロップデザイナー級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	6,932.85㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上7階
工事完了予定年月	令和9年2月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新川崎プロジェクト新築工事	階数	地上7F
建設地	川崎市幸区下平間字宮前耕地146-1、146-2	構造	RC造
用途地域	商業地域、第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	272 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年2月 予定	評価の実施日	2023年12月27日
敷地面積	2,250 m ²	作成者	株式会社デベロップデザイン 竹林正隆
建築面積	1,336 m ²	確認日	2023年12月27日
延床面積	6,933 m ²	確認者	株式会社デベロップデザイン 竹林正隆

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.6/4.3	1.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.3
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	断熱等性能等級5相当 カーテン+庇(バルコニー)にて昼光制御	5.3/5.9	4.5
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	断熱等性能等級5相当	4.3/5.0	4.3
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避		2.9/4.7	3.1
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	気象台データを用いて風環境を把握している	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.4
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	品確法劣化対策等級3	0.3/0.5	3.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	内装が乾式工法で分別が容易	2.5/4.0	3.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	適正な駐車スペースの確保	0.3/0.4	3.9
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	断熱等性能等級5相当 BEI=0.77	4.3/5.0	4.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.1**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	品確法劣化対策等級3	0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	断熱等性能等級5相当 BEI=0.77	4.3/5.0	4.3

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄					全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										3.0
Q1 室内環境							0.40		-	3.6
1 音環境						3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル					—	3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音					—	3.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能					—	3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能					—	-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					—	-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					—	-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音					—	-	-	-	-	
2 温熱環境						2.0	0.35	5.0	1.00	4.1
2.1 室温制御					—	2.2	0.50	5.0	1.00	
1 室温		W			住:断熱等性能等級5相当	3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能					—	1.0	0.38	5.0	1.00	
3 ゾーン別制御性					—	-	-	-	-	
2.2 湿度制御					—	3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式					—	1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.0	0.25	3.2	1.00	3.1
3.1 昼光利用					—	3.0	0.30	2.4	0.50	
1 昼光率					—	3.0	0.60	3.0	0.50	
2 方位別開口					—	-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備		W			—	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策					住:カーテン+庇(バルコニー)にて昼光制御	3.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御		W			—	3.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度					—	3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御					—	3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.6	0.25	3.7	1.00	3.7
4.1 発生源対策					F☆☆☆☆建材を全面的に採用	4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					—	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気					居室面積の1/8以上の開口有	3.0	0.40	3.3	0.38	
1 換気量					—	3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能					—	-	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					—	3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理					—	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視					—	-	-	-	-	
2 喫煙の制御					—	-	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.2
1 機能性						2.4	0.40	3.8	1.00	3.3
1.1 機能性・使いやすさ					—	3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性					Gbitクラスのプロードバンド設備を整備	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応					—	-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画					—	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					—	1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観					—	-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース					—	-	-	-	-	
3 内装計画					—	1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理					—	3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					—	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					—	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振					—	3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					—	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能					—	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					品確法劣化対策等級3	3.5	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			R		—	5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			R		住:壁)20年(ビニルクロス貼り)、天井)30年(ビ	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			R		—	4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			R		主な用途2種以上にB以上を使用しEは不使用	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			R		—	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			R		—	2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備					—	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備					—	2.0	0.20	-	-	
3 電気設備					—	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法					—	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備					—	3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性									3.0	0.30	3.3	1.00	3.2
	3.1 空間のゆとり									-	-	3.6	0.50	
	1 階高のゆとり								階高2.9m以上	-	-	4.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ								-	-	-	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり								-	-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性									3.0	1.00	-	-	
	1 空調配管の更新性								-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性								-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性								-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性								-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性								-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保								-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)										-	0.30	-	-	2.0
1	生物環境の保全と創出				G	W			H	-	1.0	0.30	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮				G					-	2.0	0.40	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮									-	3.0	0.30	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上									-	3.0	0.50	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W			H	-	3.0	0.50	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー										-	0.40	-	-	4.3
1	建物外皮の熱負荷抑制					W			H	断熱等性能等級5相当	5.0	0.20	-	5.0
2	自然エネルギー利用					W			H	-	2.0	0.10	-	2.0
3	設備システムの高効率化					W			H	BEI=0.77	5.0	0.50	-	5.0
4	効率的運用									-	3.0	0.20	-	3.0
	集合住宅以外の評価									-	-	-	-	
	4.1 モニタリング					W			H	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制					W			H	-	-	-	-	
	集合住宅の評価									-	3.0	1.00	-	
	4.1 モニタリング					W			H	-	3.0	0.50	-	
	4.2 運用管理体制					W			H	-	3.0	0.50	-	
LR2 資源・マテリアル										-	0.30	-	-	3.1
1	水資源保護					W	R			-	3.0	0.20	-	3.0
	1.1 節水									-	3.0	0.40	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用									-	3.0	0.60	-	
	1 雨水利用システム導入の有無									-	3.0	1.00	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無									-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減									-	3.2	0.60	-	3.2
	2.1 材料使用量の削減					W	R			-	2.0	0.10	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用					W	R			-	3.0	0.20	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					W	R			-	3.0	0.20	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					W	R		断熱材	-	3.0	0.20	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材					W	R		-	-	2.0	0.10	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					W	R		内装が乾式工法で分別が容易	-	5.0	0.20	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避									-	3.0	0.20	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用									-	3.0	0.30	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避									-	3.0	0.70	-	
	1 消火剤					W				-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)					W				-	3.0	0.50	-	
	3 冷媒					W				-	3.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境										-	0.30	-	-	3.4
1	地球温暖化への配慮					W				LCCO2排出量を参照値より抑制している	4.0	0.33	-	4.0
2	地域環境への配慮									-	3.1	0.33	-	3.1
	2.1 大気汚染防止									-	3.0	0.25	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善				G	W			H	-	3.0	0.50	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制									-	3.5	0.25	-	
	1 雨水排水負荷低減						R			-	3.0	0.25	-	
	2 汚水処理負荷抑制						R			-	3.0	0.25	-	
	3 交通負荷抑制						R			荷捌きスペースを確保	4.0	0.25	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制						R			ディスプレイの設置あり	4.0	0.25	-	
3	周辺環境への配慮									-	3.1	0.33	-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止									-	3.0	0.40	-	
	1 騒音									-	3.0	1.00	-	
	2 振動									-	-	-	-	
	3 悪臭									-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制									-	3.0	0.40	-	
	1 風害の抑制									-	3.0	0.70	-	
	2 砂塵の抑制									-	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制									-	3.0	0.30	-	
	3.3 光害の抑制									-	3.7	0.20	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策									広告物照明なし	4.0	0.70	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策									-	3.0	0.30	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	2.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	9.0	-	-	1.0	-	3.0	1.0	-	-	2.0	-	2.0	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	11.0	-	1.0	-	-	3.0	2.0	-	-	2.0	-	3.0	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0	-	1.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	4.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC(窓の日射熱取得率(η))				
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床
住戸部分システムU値	外皮UA値	η AC	η AH	
昼光率	0.0%			
自然換気有効開口率	0.0%			

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

執務スペース	6.0㎡ / 人	病床	8.0㎡ / 床	シングル	15.0㎡ ツイン	22.0㎡			
コンセント容量	0.0 VA/㎡								
天井高	0 m								
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%						
想定耐用年数	0 年								
想定必要間隔	0 年								
想定必要間隔	0 年								
想定必要間隔	0 年								
階高	0 m								
壁長さ比率	0.0%								
床荷重	- N/m2								
外構緑化指数	66%	建物緑化指数	0%						
空地率	41%	水平投影面積率	6%	地表面対策面積率	30%	舗装面積率	20%		
BPI/BPI _m	- 日射等性能等級 等級4を超える 相当								
自然エネルギー直接利	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%				
		通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%				
BPI/BPI _m	非住宅 -	住宅 -	太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW	
雨水利用率	0.0%								
特定調達品目	-	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-				
使用比率	0.0%								
オゾン層破壊係数(CFC-12)		地球温暖化係数(GWP)							
オゾン層破壊係数(CFC-12)	0	地球温暖化係数(GWP)							
オゾン層破壊係数(CFC-12)	0	地球温暖化係数(GWP)	8						
見付面積比	172%	棟間隔指標Rw	0.56						
地表面対策面積率	40.0%	屋根面対策面積率	#DIV/0!	外壁面対策面積率	#DIV/0!				
見付面積S _b	564㎡	1越風向と直交する最大敷地幅W _s	36.16 m	基準高さH _b	9.02 m				
緑地	459㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡